



特集にあたって

國分利幸（関東支部運営委員）

一昨年の東京・渋谷の五島プラネタリウムに引き続き、池袋のサンシャインプラネタリウムが今年6月1日に閉館いたしました。また、横浜市内にある神奈川県立青少年センターも、この春にプラネタリウム施設が廃止されるなど、関東のみならず、全国的にもプラネタリウム館が相次いで閉館・縮小されようとしています。

そのような状況の中、関東支部では、研究会「プラネタリウムの役割と使命を考える」を2003年4月27日（日）に開催しました。この研究会は、本会プラネタリウムWG、日本プラネタリウム協会、汎星会との共同主催で、学校教育や生涯学習などに果たすプラネタリウムの役割などについて幅広い意見交流を行い、プラネタリウムの課題と展望、役割と使命について考えてみようとするものです。

本特集では、その内容を紹介させていただきたいと思います。

研究会の前半は、内外のプラネタリウムの現状報告と、プラネタリウムと関わりの深い文化人による講演です。

はじめに、日本プラネタリウム協会会長の若宮崇令さんに、『プラネタリウム白書』を基に日本の現状の報告を、引き続き杉並区立科学館の伊東昌市さんには、海外、とくに欧米における現状を、日本と比較しながら話していただきました。3人目は、『小惑星美術館』『ラジオスターレストランへようこそ』（いずれもパロル舎）などの作品を著している作家の寮美千子さん。ご自身がプラネタリウム番組制作に携わった経験などから、さまざまなご提案をいただきました。前半最後の登壇者は、サンシャインプラネタリウムでコンサート活動を続けてこられた音楽家のあがた森魚さん。あがたさんには、ご自身の体験などを中心に、音楽家からみたプラネタリウムについて語っていただきました。

休憩と、水野孝雄さんによる「サンシャインプラネタリウム存続を願う会」からの報告をはさんで、後半のディスカッションは、前半の登壇者に加えて、抜群の人気を誇る『メガスター』の製作者である大平貴之さん、科学ジャーナリストとして活躍の林衛さんにも加わっていただき、山梨県立科学館の高橋真理子さんの司会のもと、「プラネタリウムの特徴」「プラネタリウムは何をやるか?」「利用者へのコミットの仕方」「外部との連携」などを中心に、会場の参加者も交えながらの活発な議論を行いました。

また実行委員では、今後も議論を継続していくためのWeb掲示板を設置しました (<http://bbs8.otd.co.jp/planetarium/>)。積極的にご利用していただければ幸いです。

本号の特集では、今回の研究会のなかから、若宮さん、伊東さん、寮さんの講演を紹介します。あがたさんの講演と後半ディスカッションの内容は9月号に掲載する予定です。

最後になりましたが、今回の研究会の開催にご尽力いただいた皆様、そして参加者の皆様に御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。